

公民館だより なかがわ

第473号

令和4年4月1日
発行 中川地区公民館
TEL.Fax : 679-2501

令和4年度

新体制でスタート！！

一年間よろしくお願いいたします。（※敬称略）

| 地区 | 地区会長 | 副会長 | 公民館主事 | 体育部 | 子ども育成会 |
|-----|--------|----------------|--------|--------|--------|
| 糸目 | 稲毛 信雄 | 稲毛 栄一 | 稲毛 進 | 五十嵐 清巳 | |
| 仙石 | 佐藤 修司 | 稲毛 敏 小川 勉 | 柴田 浩彰 | 小川 昌裕 | 高野 航 |
| 泉川 | 木村 雅美 | 木村 郁子 | 佐藤 賢事 | 木村 壮 | 山口 淳 |
| 金谷 | 中村 守男 | 齋藤 正憲 木村 政一 | 木村 正人 | 鏡 耕大 | 吉田 史弥 |
| 足ノ口 | 山田 一彦 | 齋藤 耕一 | 沼沢 悟 | 山田 雄介 | 山田 杏伊 |
| 甲石 | ◎松田 勝巳 | 鈴木 孝 | 木村 信幸 | 加藤 英治 | 木村 圭 |
| 高野 | 鈴木 英明 | 佐藤 友治 齋藤 忠二 | 閉伊口 好晴 | 布川 俊之 | 寒河江 寿 |
| 薄沢 | 齋藤 裕則 | 齋藤 浩二 | 齋藤 忠雄 | 齋藤 真志 | 齋藤 将 |
| 永野 | 山川 光照 | 中川 賢治 齋藤 良文 | 齋藤 秀昭 | 相澤 良彦 | 会田 純一 |
| 蔵王 | 鈴木 祐二 | 石黒 清 | 菱沼 秀夫 | 佐藤 裕也 | 堀江 敦 |
| 権現堂 | ○齋藤 長昭 | 齋藤 秀明 | 齋藤 康之 | 齋藤 朴 | 齋藤 早紀 |
| 小倉 | 齋藤 誠 | 工藤 喜則 | 荒井 孝範 | 伊藤 勝宏 | 坂本 雅則 |
| 棚木 | 伊藤 寛 | 岡崎 康 | 伊藤 国雄 | 伊藤 勝之 | |
| 坊平 | 長谷川 剛 | 真篠 利光 | | | |

◎会長 ○副会長

《 中川地区公民館運営方針 》

上山市民憲章に基づき、中川地区の風土、歴史、伝統をふまえながら健康で活力ある人づくりを進める。その為に、地域住民の生涯各時期における研修や事業を数多く取り組むとともに、多くの人が生き生きと活動できるように運営し基本目標の達成を図る。

☆館長 山田 君夫（足ノ口） ○事務長 佐藤 友治（高野）

○地域活動推進員 柏倉 美穂（宮脇） 三瓶 良子（石崎）

いよいよ令和4年度がスタート致しました。中川地区の皆様には日頃より公民館事業にご理解とご協力をいただき誠に感謝申し上げます。中川地区公民館は公設民営化（指定管理者制度）第4期2年目の年になり順調に運営されております。今年度もまた様々な事業を実施してより一層地域の活性化のために職員と共に頑張っていきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

中川粋いき倶楽部閉講式



2月25日(金)「令和3年度中川粋いき倶楽部閉講式」が開催され、山田館長挨拶、来賓として冨塚地区会長会長の挨拶の後、事業報告、決算見通しを報告し承認されました。その後、DVDの鑑賞会が行われ、今年度最後の事業となりました。



今年度の粋いき倶楽部も、昨年同様にコロナウイルス感染予防対策をしながらの事業となりましたが、予定変更はあったものの9回全て開催することができました。カローリング体験やマジックショーなど楽しんでいただけたのではないのでしょうか？来年度も感染予防対策をしながらとなりますが、会員の皆さんが楽しんで参加できるような事業、研修を考えていきたいと思っています。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

女性学級きらり閉講式

3月4日(金)「令和3年度女性学級きらり閉講式」が開催され、山田館長挨拶後、事業報告と決算見通しが承認されました。その後、フラワーアレンジメント(つかさ花店さんよりご指導いただきました。)が行われ、今年度最後のフラワーアレンジを楽しみました♪

来年度も皆様にご意見を聞きながら、また、コロナウイルス感染予防対策をしながらとなりますが、フラワーアレンジメント、体験教室、一日研修、映画鑑賞、軽い運動などを取り入れ、楽しく学べる事業ができるように考えていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



令和3年度「笑いと健康のつどい」開催

3月12日(土)中川地区会長会主催の「笑いと健康のつどい」が、中川地区公民館集会室で41名の参加で開催されました。今年もコロナウイルス感染防止のため、密にならないよう一般公募はせずに行われました。司会進行は糸目地区稲毛信雄会長、主催者挨拶を松田勝巳会長会副会長からいただきました。

今年度も山形落語愛好協会から3名をお迎えしました。トップバッターは中川地区公民館では初めてとなる、錯乱坊双極師匠の「長短」。続いて、浅草亭恋之助師匠の「転失気」。仲入りを挟んで、地元上山出身の山彦亭虎之輔師匠の「六尺棒」。トリは再び錯乱坊双極師匠の「浮世床(夢)」。それぞれ個性豊かな話しぶりで、終始会場を沸かせ、笑いの渦となってあっという間の時間となりました。世界中でコロナウイルスや争いによる悲しいニュースばかりで気持ちが沈みがちです。笑うことで免疫力をアップさせコロナウイルスにも打ち勝ち、また笑いの連鎖で周りの人々を笑顔にできればいいなあと思いました。

「笑いと健康のつどい」では山形落語協会の皆さんに毎年来ていただくことになりましたが、来年こそは一般公募でたくさんの方々に聞いてもらえる開催ができることを切に願います。

錯乱坊 双極師匠



浅草亭 恋之助師匠



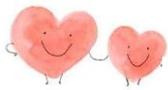
山彦亭 虎之輔師匠



「元クリーンセンター等解体撤去工事」説明会

3月15日(火)市民生活課より課長と担当係長が来館し、地区会長の皆さんへ、元クリーンセンターの解体工事について説明がありました。工期は令和4年5月下旬~令和6年3月中旬までの約22カ月間で、解体にあたっては、シートで建物を覆って粉塵が外部に漏れないようにするなど、法律等の定めにより適正に処理を行うとのことで、その後質疑応答がありました。





福祉村施設訪問

3月2日(水)、今年度もコロナウイルス感染予防のため訪問ではなく各施設より公民館に来ていただき、概要説明・質疑応答が、会長会・民生児童委員の参加を得ておこなわれました。

【蓬仙園】・・・特別養護老人ホーム、介護予防短期入所生活介護、通所介護、居宅介護、市からの委託事業など、様々な事業を行っています。また、令和4年秋より新しい蓬仙園へ移行予定であり、居室区分が多床室から完全個室に変わるなど、万全な感染症対策等もできるようになります。

【かみのやま病院】・・・1922年に山形市桜町にて開業し、今年で100年を迎えます。デイケアや訪問介護、介護支援事業なども行っています。また、精神科認定看護師の佐藤さんより認知症のケア教育内容をお伺いし、認知症の方だけでなく、私たちの日常生活の中でも大切な、常に笑顔で対応するなど、10項目を教えてくださいました。

施設見学はできませんでしたが、改めて各施設のことを知ることができ、理解が深まったのではないのでしょうか？これからも、様々な事業を通して、各施設と中川地区の連携を強めていければと思います。



行事予定



- 4/1(金) 市報・館報
- 4/4(月) 中川児童センター入所式
中川地区会長会総会・公民館運営協議会総会
中川地区合同懇談会
- 4/6(水) 戦没者追悼式代表者会議
- 4/8(金) 中川小学校、北中学校入学式
第1回主事部、体育部合同会議
第1回体育部会
粋いき倶楽部代表者会議
- 4/12(火) 中川福祉村第1回実行委員会
- 4/15(金) 第1回/パソコンクラブ
第1回子ども会育成会
- 4/18(月) 第1回そば打ち教室
- 4/20(水) 第62回中川福祉村村議会
- 4/21(木) 地区公民館職員合同会議 (職員不在時間帯あり)
- 4/22(金) 中川地区戦没者追悼式
議会報告会
- 4/25(月) 第1回ウォーキング (職員不在時間帯あり)
- 4/26(火) 第1回女性学級きらり開講式
- 4/27(水) 上山市地区会長会議
- 4/28(木) 里山体験きのこ作り教室 (職員不在時間帯あり)
詩吟教室 (火曜日) 4/5、12、19
ラージピンポン愛好会 (木曜日) 4/7、14、21、28
スポーツ麻雀愛好会 4/9、23 (土曜日)
4/14 (木曜日)
グラウンドゴルフ愛好会 (月曜日)
4/4、11、18、25

「モルック体験会」開催！！



かみのやまスポーツクラブの齋藤先生に指導していただき、「モルック体験会」が13名の参加で開催されました。「モルック」はフィンランド発祥のスポーツで、ルールも簡単で誰でも気軽に楽しめる今話題となっています。モルック(投げる木の棒)を並べたスキttl(置いてある木のピン)に投げ、スキttlの数字、倒した本数等で点数を競い合います。持ち方や投げ方で当たり方も変わるので、初めは悪戦苦闘でしたが、皆さんすぐに上達して狙ったスキttlを倒して、楽しんでいました♪ さすがです!!かみのやまスポーツクラブさんより手作りのモルックのセットをいただいたので、これから公民館事業の中でたくさん活用していきたいと思ひます。



行事予定



- 5/6(金) 三者会・中川地区会長会
公民館運営協議会
- 5/9(月) 福祉村第2回実行委員会
第1回主事部会
- 5/10(火) 市報・館報
第2回そば打ち教室
- 5/13(金) 第2回パソコンクラブ
- 5/17(火) 食改検討会
防犯協会中川支部総会
- 5/20(金) 第2回女性学級きらり
- 5/24(火) 第2回ウォーキング
(職員不在時間帯あり)
- 5/27(金) 第1回粋いき倶楽部開講式
- 詩吟教室 (火曜日) 5/10、17、24
ラージピンポン愛好会 (木曜日) 5/12、19、26
スポーツ麻雀愛好会 5/7、21 (土曜日)
5/12 (木曜日)
グラウンドゴルフ愛好会 (月曜日)
5/2、9、16、23、30

おらほの中川 へ地域の話題シリーズ 第百六十二弾

「昭和考、問わず語り（その14）」

甲石地区 高橋 正之

〈天皇に直属する軍隊であった〉

軍隊は、明治初期に海軍と陸軍に分離し、徴兵制をとった。

軍の統帥権は、「軍人勅諭」（明治十五年）（一八八二年）（発布）によって天皇にありとされた。また上官の命令は天皇の命令である、と規定し、天皇に直結する軍隊であることを規定した。さらに、軍人の政治不干渉の規定も設け、当時国内で蠢動していた自由民権運動が軍隊に波及することを避ける規定も設けられた。

〈改元時の軍隊の規模〉

海軍は、当時世界最大規模だったイギリス海軍を手本にした。

陸軍は、はじめフランス陸軍をお手本にしたが、一八七〇、七年のフランスとプロイセンの戦争（普仏戦争）でフランスが負けたことをきっかけに、プロイセン（後のドイツ）の陸軍をお手本としてそれぞれ独自の発展を遂げた。

昭和改元当時の規模は、陸軍が約二十一万人、海軍が約八万人、海軍の船舶数は二百六十七、陸軍と海軍を合わせた軍用機の数、約四百八十機だった。（古川隆久著ちくま新書「昭和史」四十三頁より）

〈自衛隊との比較〉

日本の軍隊は、その後日中戦争、太平洋戦争へと進むに従い、規模を拡大して行くが、改元当時の規模を

推測するため、現在の自衛隊（日本を専守防衛する戦力に止らない防衛隊）と人数だけで比較すると以下の通りであり、数的には同規模であった。

現在の自衛官は、二〇一七年（平成二十九年）三月三十一日現在、二十二万四千四百二十一人。うち女性自衛官は一万三千七百七人。各隊の内訳は、陸上自衛隊が約十三万五千人。海上自衛隊四万二千人以上。航空自衛隊四万人以上となっている。（池上彰著 SB新書「知らないですまされない自衛隊」二十頁より）

〈軍事方針の決定、世界レベルでの軍事力〉

軍備計画の基本は、「帝国国防方針」というもので、日露戦争をきっかけに、数年ごとに陸海軍が極秘裏に作成し、天皇の認可を受けて決定された。しかし、首相さえ詳細は知らされず、まして報道されることもありえない極秘文書だった。当時陸海軍が「帝国及列強の陸軍」や「海軍及海軍要覧」などの広報資料で公表していた統計数値では、ソ連や中国との比較数値が欠けているが、日本の軍事力の規模は、金額（軍事費）でも、陸軍の人数、海軍の艦艇数でも、おおむね米、英、伊に次ぐレベルとなっている。おそらくアジアでは第一位だったと思われるが、世界レベルでは五位以下だった。（古川隆久著ちくま新書「昭和史」四十三頁より）

〈日本軍の階級制度〉

陸軍の兵士は、二等兵、一等兵、上等兵、兵長。下士官は伍長、軍曹、曹長の階級だった。昭和十五年九月、伍長勤務の上等兵を階級とした。また上等兵と伍長の間に兵長を設けた。伍長や軍曹は希望者を試験で選抜した。（写真①②は、父の従軍時の写真である。我が父は、約5年間従軍し兵長で除隊した。）

部隊を指揮する将校は、次のように養成された。

指揮官である将校、士官は、陸軍は陸軍士官学校、海軍は海軍兵学校で養成した。

両方とも軍が運営する学校で、中学校卒業が受験資格だった。三年制の給費制の学校で、入学と同時に軍人となり、卒業すれば将校として任官された。

さらに、作戦を立てる役目である参謀の養成を目的とした陸軍大学校（陸大）、海軍大学校（海大）があり、下級将校の中から、上司の推薦と試験により入学できた。修学年限は陸大が三年、海大は二年である。陸軍には陸軍士官学校の前段階として、中学校在学を受験資格とする三年制の陸軍幼年学校があった。陸軍の場合、出世の頂点をきわめるには、陸軍士官学校だけでなく、幼年学校と陸軍大学校を優秀な成績で卒業する必要があった。

任官すると少尉から始まり、中尉、大尉、少佐、中佐、大佐、少将、中将をへて最高位は大将、大将のうち、特に功労がある場合元帥という称号が天皇から贈られた。将校の世界も会社や役所と同じく、上にいくほど役職数が減るので、士官学校のみ卒業者の場合、大佐までいけばいい方だった。階級ごとの在籍年限が決まっていたので、年限が来ても昇級できない場合は予備役となった。つまりは退職するわけだが、予備役という言葉どおり、有事で将校が足りなくなつた場合は退職時の階級で召集された。

そのほか、高学歴者向けに幹部候補生という制度があった。大正期から中学校以上の学校で学校教練という授業が設けられ、この授業を受けた学生が、卒業後、本業のかたわら所定の訓練や手続を経て予備士官の資格をとることができるといふ制度である。有事に将校が不足した場合を想定した制度で、実際に日中戦争が始まると召集されるようになる。（古川隆久著ちくま新書「昭和史」四六〜四八頁より）

（次回は、徴兵制、徴兵、応召について記述する予定です。）



(写真①)



(写真②)